

# 29年度県外視察研修報告

下諏訪町立下諏訪社中学校 松井隆伸

研修のテーマ

## 生徒の思考力・判断力・表現力を深めるためのICTを生かした授業作り

視察期日 平成29年9月27日(水)

視察場所 東京都大田区立安方中学校、北糀谷小学校

研修報告

### (1) 研修の概要

文部科学省指定校のICTを生かした授業を参観することで、生徒の学びを深められる授業構成を考え、日々の授業改善をはかっていく。

### (2) 参観授業

参観教科	参観学年	内容
国語	中学1年	言葉のイメージを考える
社会	中学1年	ヨーロッパの地形について調べる
算数	小学5年	きまりをみつけて長方形に使われている棒の数を求める

### (3) 研修で学んだこと

効果的なICTの活用：視覚情報は、文字だけでは掴めなかった情報を具現化することや、自分でイメージした情報をより確かなものにするに有効であると考えている。今回参観した授業では、課題把握や振り返り等の様々な場面でICTを活用していた。

国語では、プロジェクターとネットに接続されているタブレットを活用し、言葉のもつイメージを、映像を使って確認していった。導入の場面で、あるお笑いコンビのネタを電子黒板の映像で流した。その会話の中で、様々な言葉が使われていて、その言葉のイメージを追究していった。追究していくなかで、言葉のイメージがわからないものが出てきたら、その場でインターネットを活用して映像を紹介していった。これらの学習過程は、生徒が言葉のもつイメージを掴みやすくなり、会話の内容についてイメージを膨らませて聞くことが出来るようになった。ネットからの情報を子どもたちで共有することが1人1人の生徒の学びを深めることに有効な手立てとして活用されていた。

社会では、電子黒板を活用し、ヨーロッパの地形を調べる学習をした。特に子どもたちの理解が深まったと思われる内容は、フィヨルドの成り立ちを考えることにスライドショーを利用したことである。氷河による浸食作用によって形成されていく過程を写真で見ること、「こうやってできたんだ」というつぶやきが聞こえてきた。子どもの疑問が画像を見ることが解決でき、理解を深めることに繋がったと考えられる。

算数では、電子黒板とタブレットを活用しきまりを見つけて30個の長方形に使われている棒の本数を求める学習をした。きまりを見つけるときの手立てとして、長方形が増えていくときの様子を電子黒板の映像で確認しながら進めていた。その結果、棒の増え方のきまりが気づきやすくなったと思われる。また、個人追究でまとめた生徒のノートタブレットで写し、それを大型スクリーンで全体で紹介する場面もあり、生徒が読んで説明したり黒板に書いて説明したりするよりも、時間を縮小でき全体で追究する時間が十分確保できることに繋がっていた。



### (4) 研修を通して

ICTを活用した視覚情報は、間違いなく生徒の知識理解や見方や考え方を深める有効な手立てであると感じた。ただし、ICTの活用は使い方によってはその機器の特徴を生かせず、ただ資料を提示するだけになってしまうこともある。教師はICTの活用についてさらに研修する必要があると思う。授業研究会で、ICTもよいが、手作りの教材も大事なのはという話題になった。視覚情報で確かになった自分の考えを、自分の手で実際に操作しながら学びを深めることも大事だと思われる。ICT利用と体験的活動のバランスも考えていきたい。また、ICTを充実させるには莫大な費用もかかってくる。一時間の授業をさらに充実させるには、今ある設備の中でねらいを達成するためにICTを積極的に活用した授業作りに取り組んでいきたい。